

鹿児島県は離島の人口と面積が全国1位の県です。今回は三島村の「硫黄島」を紹介します。

大地の鼓動と情熱のビートが鳴り響く

しまじま

島々

もよう

vol. 11

lojima

硫黄島

火山がつくった 雄大な自然と景観

山頂からたびたび噴煙を上げる硫黄岳。鉄分を含む温泉の噴出により褐色に染まる海。硫黄島は、大地の鼓動を肌で感じられる火山の島です。三島村の3つの島の真ん中にあり、薩摩半島南端から南へ約40キロの位置に浮かんでいます。この島は約7300年前（諸説あり）の巨大噴火で形成された「鬼界カルデラ」の一部であり、その中央火口丘にあたります。



東温泉



メンドン

『平家物語』ゆかりの島
安元3年（1177年）に鹿ヶ谷事件で俊寛・藤原成経・平康頼が流された「鬼界ヶ島」は硫黄島とされています。ちなみに『平家物語』では、「高き山あり。としなへに火燃ゆ。硫黄と云ふ物充ち満てり」と島の様子を伝えています。俊寛の死後に島民がその住居跡に建てた神社とされ

平成27年9月には、独特の自然環境や歴史などが評価され、三島村全域が「三島村・鬼界カルデラジオパーク」として日本ジオパークに認定されました。

火山活動は恵みももたらし、かつては硫黄採掘が島の主産業でもありました（昭和39年に閉山）。最近では地熱を活用した新たな事業が検討されています。また、島のあちこちに温泉が湧き出し、東温泉や坂本温泉といった野趣あふれる海辺の露天風呂も温泉好きを惹きつけています。



「俊寛堂」、藤原成経と平康頼が建てたという「熊野神社」など、ゆかりのある史跡も残っています。
平成23年には、故中村勘三郎一門による野外歌舞伎「俊寛」が、硫黄島で15年ぶりに再演され、砂浜に竹や松をあしらった自然の舞台で、熱演が披露されました。



島々メモ 火の島に息づく アフリカンビート

ジャンベという西アフリカの伝統的打楽器が、島のイベントなど、いろいろな場面を盛り上げています。ジャンベと硫黄島との関係は、平成6年にギニア共和国のトップ奏者であるママディ・ケイタが島を訪れてから始まりました。交流は続き、平成16年にはママディのプロデュースによる「みしまジャンベスクール」が開校しました。毎年秋には、国内外の奏者が参加するジャンベフェスティバルも開催されています。



【位置】北緯30度47分35秒／東経130度18分19秒

【面積】11.74km² 【周囲】14.5km

【人口】126人（平成27年12月1日現在）

【島名由来】「古来、硫黄を産す」ことから（『三国名勝図会』より）

【地形】東西6km、南北3km。硫黄岳（標高704m）を最高点とする火山島。

【主な産業】畜産（肉牛など）・漁業（イセエビなど）

【アクセス】鹿児島港より村営の「フェリーみしま」が運航。週に3便。鹿児島港からの所要時間は約220分。

週2回、鹿児島空港からセスナ機も運航。所要時間は約50分。

問い合わせ先：三島村役場 ☎099(222)3141

（所在地は鹿児島市内）